

お米とわたしのお手伝い

高屋西小 三年 石田 未桜

「みおちゃん、お米手伝って。」

お母さんから、ときどきお米をどくお手伝いあなたのまねることがあります。

お兄ちゃんたちがたくさん食べるので、夜はら合はか、て入れて、つめたい水を入れてまぜます。ジラジラまぜても気もちいいです。

「みおちゃん、遊ばずにちゃんとしてね。」

お母さんからよく言われてしまいます。白くなら、た水はながしても、お米はながさないように気をつけてやります。この時がいちばんお母さんがきびしいです。

そして、ここから

「ジラジラ、ザッザッザッ、ジラジラ」

「ザッザッ、ザッザッ。」

あたしがどおわ。てお米をどく時間。お母さん

んが、いつもリズムよくや、ついでのをまね

します。

小さき時からよく聞こえてきた音です。と
てもきれいな音です。お米をとぐとき水とお
米がツヤツヤラゆってきもちいいです。す
いはんきのスィッチをおいていた入あだし
のお手伝いはおあります。

「みおちゃん、ぶつだんへもって行って。こ
お母さんから、また、お手伝いをたのまれました
次は、小さくもられたおはちをぶつだんにお
そなえます。たぎたてのお米のいいにおい
かしてきます。」

みんなそろってごはんを食ぶるときに
「今日はおみおちゃんが、お米とぎしてくれたか
ら、おいしいよ。」
と母さんがお父さんに言ってくれます。ある
と、お父さんはびっくりにしてほめてくれます。
おあたしがお米のお手伝いをするとき、ごはん
がおいしいと言ってくれるからうれしいです。